

温暖化対策技術プロジェクトチームまとめ (骨子案たたき台)

I. はじめに

- 温暖化問題をめぐる状況

2000 年度は、対 90 年比 8 % 増加の実態
議定書目標（対 90 年比 6 % 削減）達成への困難性
原発停止による CO2 排出増加
循環型社会形成による温暖化対策の側面

- 地球温暖化対策推進大綱の概要

京都議定書削減約束
地球温暖化対策の基本的考え方と我が国の取り組み
環境と経済の両立
ステップバイステップアプローチ（2004、2007 年度の見直し）
国民各界各層の取り組み
国際的連携の確保
自主行動計画の位置付け

- 対策技術研究開発のさらなる推進のために戦略が必要

第一約束期間までの時間の短さ、研究開発・普及に要する時間の長さを考慮すると、温暖化抑制に効果の大きい技術の開発と普及を図るため、戦略的な重点化・加速化が必須。

また、第一約束期間以降を見据えた長期的な温暖化対策として、科学技術に依存する部分が大きいため、戦略的な研究開発の推進が不可欠。

- 海外における研究開発の状況

欧米における、温暖化対策技術の開発方針、実施状況について、簡潔に記載。

II. 研究開発の取組状況

- 研究開発の状況

各省で実施されている温暖化対策技術に係る研究課題について、プロジェクトチーム会合でのヒアリング資料に加え、各省に依頼して収集した詳細情報に基づき、研究開発の取り組み状況を取りまとめる。取りまとめに際しては、科学技術の観点により明確にするため、以下の項目分けとする。

(1) 省エネルギー

(ア) 製造工程

(イ) 製品

① 輸送機器

② 産業機器

③ 電子機器（弱電）

④ 電力機器

⑤ 住宅・建築

(2) 新エネルギー・燃料転換・原子力

(3) 非エネルギー起源二酸化炭素・メタン・一酸化窒素

(4) 代替フロン3ガス（HFC、PFC、SF6）

(5) 吸収源

(ア) 森林

(イ) その他

(6) 回収貯留

(ア) 分離回収

(イ) 隔離

(7) その他

Ⅲ. 研究開発推進戦略

○ 戦略の考え方

研究開発推進戦略の策定にあたっては、それぞれの個別技術の（１）二酸化炭素削減ポテンシャル、（２）研究開発の必要性、（３）導入・普及方策の必要性、（４）実現予想時期の観点から、重点化・加速化の必要な課題を抽出する必要がある。

このため、プロジェクトチームでの議論をもとに、上記の４つの観点から特筆すべき技術課題について取りまとめる。

○ 技術の導入・普及を促進する関連施策の重要性

既に研究開発のフェーズから、社会への導入・普及のための施策に重点を移すべき時期に来ている項目について、関連施策実施の重要性について議論する。

IV. その他の重要事項

- 国民各界各層による取り組みの推進
 - 環境と経済の両立
 - エネルギー政策との関係
 - 国民の意識改革
- 温暖化対策として科学技術の果たす役割（と限界）
 - 研究開発の時間軸（2010 年を目標とした場合の現実性）
 - LCA の観点からの評価の重要性
- 開発成果普及のための施策（社会受容性、規制・制度の見直し、インフラ整備、等）の重要性
 - 社会的環境整備・社会コスト、法規制緩和（廃掃法等）
 - 費用対効果
- 温暖化対策、循環型社会構築等における新環境産業の拡大への期待
- 国際的な視点
 - 国際的競争力
 - 途上国
 - 京都メカニズム
- 研究開発に係る人材の育成